

2005年 8月 1日

各 位

杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台2-5
(証券コード 4560 東証一部)

韓国LG社とのKRP-197に関する基本覚書の締結について

杏林製薬株式会社(社長:荻原郁夫)は、韓国LG Life Sciences, Ltd.(社長兼CEO:Heung - Joon Yang、以下LGLS社)と、この度、当社が創製した過活動膀胱治療薬「KRP-197」(製品名;ウリトス[®]錠)に関する覚書を締結し、下記の内容について基本的合意に至りました。

1. 杏林製薬(株)は、韓国LGLS社に対し、「KRP-197」の韓国における独占的な開発、製造及び販売権を供与する。
2. 欧米及びアジア諸国などにおいて「KRP-197」の商品化の可能性を、一定期間限定し検討する権利を独占的に韓国LGLS社に供与する。
3. 杏林製薬(株)は、契約金及びマイルストーンペイメントを受け取るほか、発売後は一定率のロイヤリティを韓国LGLS社より受け取る。

これら条件の詳細は、今後両社間で締結する予定の契約にて、取り決めることとなります。

当社といたしましては、日本国内においてウリトス[®]錠の早期の承認及び上市を目指す一方、韓国有数の製薬企業であるLGLS社と提携し韓国での発売を目指すとともに、全世界での本剤のグローバルな事業展開の可能性も検討してまいります。

「KRP-197」は、ムスカリン受容体M3・M1の拮抗剤で、従来の治療薬と異なり膀胱平滑筋に選択的に作用するのが特長です。日本国内においては、小野薬品工業株式会社と共同開発・共同販売契約について2000年10月に基本覚書を締結し、現在、当社及び小野薬品工業株式会社がそれぞれウリトス[®]錠及びステイブラ[®]錠の商品名にて申請(2004年10月)中です。

過活動膀胱(OAB; Overactive Bladder)は、尿意切迫感を主症状とする症状症候群で、日常生活に様々な影響を及ぼし、QOL(Quality Of Life)を低下させることが報告されています。また、OABの有病率は加齢とともに上昇し、日本における推定患者数は約810万人とされています。OABの治療にはムスカリン受容体拮抗剤が有効であることが知られていますが、「KRP-197」は膀胱選択的で副作用の少ない薬剤であり、患者様のQOL改善に役立つ薬剤になるものと期待しております。

以 上

この件に関するお問合せ先

杏林製薬株式会社 経営企画部
TEL: 03 - 3293 - 3414
FAX: 03 - 3293 - 3454

参考資料

● L G Life Sciences, Ltd. (LGライフサイエンス社)の概要

設 立 : 2002年8月(LGCIから独立)

社長兼CEO: Heung Joon Yang

従 業 員 : 1,000名

注力領域 : 循環器、抗菌剤、泌尿器、産婦人科

特 長 : 2002年8月にLGCI社の生命科学部門が分離独立し株式上場した製薬企業。医薬品、原薬中間体、動物薬・農薬を主力とし、海外製薬企業との提携により先端バイオ製品の事業化を目指す。泌尿器科領域では、ホルモン剤のラインナップによりプレゼンスが高い。

● 杏林製薬株式会社の概要

設 立 : 1923年12月

代表取者 : 代表取締役社長 荻原 郁夫

従 業 員 : 1,619名

注力領域 : 呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科

特 長 : グローバルな創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした特色ある複合ヘルスケア企業を目指す製薬企業。創薬ビジネスモデルの進化とその創薬ビジネスを支える新たな事業の構築に取り組んでいる。営業部門は呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科に資源を集中し、研究開発部門は感染症・免疫/アレルギー・代謝性疾患を重点領域とする。